

⑪ ボタンウキクサ：佐伯河川国道事務所

# 番匠川学識者懇談会



河川整備計画策定後の流域の社会情勢の変化や地域の意向、河川整備の進捗状況や進捗の見通し等を適切に反映できるよう、現河川整備計画の内容についての点検の実施及び整備計画に基づいて実施される事業のうち、事業評価の対象となる事業について審議を行う場として、「番匠川学識者懇談会」を設置するものです。

開催日	配付資料	備考
平成26年8月25日	<a href="#">資料-1</a> <a href="#">資料-2</a> <a href="#">資料-3</a> <a href="#">資料-4</a> <a href="#">資料-5</a> <a href="#">資料-6</a>	議事概要

※ 平成9年の河川法改正に伴い、長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「番匠川水系河川整備基本方針」が平成16年1月26日に策定されました。

また、基本方針に沿って今後20から30年間の具体的な河川整備の目標や内容を示す「番匠川水系河川整備計画」が平成18年5月26日に策定されました。



## 2) 番匠川水系河川整備計画策定時からの変化

### 河川整備計画策定時からの整備の進捗状況

#### 維持管理対策の実施状況(多様な生物の生息場の保全)

##### ■特定外来生物対策

- 平成21年度に番匠川で初めて特定外来生物で繁殖力の強い「ポタンウキクサ(ウオーターレタス)」の生育が確認されたため、水温が上昇する初夏期の効率的な時期に地域住民との協働作業で速やかに撤去作業を実施した。
- また、特定外来生物のオオキンケイギクも各地点で繁殖が確認され、撤去作業とモニタリングを引き続き実施する。

#### 河川管理又は河川環境上の課題

##### 【ポタンウキクサ】

- ・旺盛な繁殖能力により在来植物の生育を脅かす恐れがある。
- ・分布範囲の拡大により、河川管理施設の操作に支障をきたす恐れがある。

##### 【オオキンケイギク】

- ・堤防法面、高水敷などに生育し、ポタンウキクサ同様に繁殖能力が旺盛なため、他の在来種の生息環境への影響が懸念される。

#### 今後の取り組み

今後も定期的に分布状況を把握するとともに、必要に応じてそれぞれ次の繁殖防止対策を講じる。

##### 【ポタンウキクサ】

- ・計画的・継続的な駆除作業の実施により、平成25年度以降は確認されていない。
- ・再発生した場合には、株数が少ないうちに撤去する必要がある。その場合に即時対応できるよう、引き続きモニタリングを行う。

##### 【オオキンケイギク】

- ・撤去作業を怠ると生育株数が増加するため、株数が少ないうちに定期的・継続的な伐根(抜き取り)を実施する。
- ・生育する管理区間が複数に及ぶため、各主体との連携と外来生物被害予防三原則※の啓発に取り組む。

※外来生物被害予防三原則 = ①入れないこと ②捨てないこと ③増やさないこと



記者発表資料

平成22年 7月 2日  
国土交通省 大分河川国道事務所  
大分市

大野川で、特定外来生物の『ブラジルチドメグサ』が確認されました

大野川及び支川<sup>さこがわ</sup>迫川で、特定外来生物の『ブラジルチドメグサ』が確認されました。

ブラジルチドメグサは、南アメリカ原産の水生植物で、驚異的な速さで分布が拡大し、水面を覆うように繁茂します。そのため、網や船舶のスクリューに引っかかるなど水産業や船舶の航行の被害や水門や排水ポンプ場等の河川管理施設の操作を妨げる恐れがあるため、現在、国土交通省、大分市により、除去作業を実施中です。

大分市内では、昨年から大野川派川乙津川で『ホテイアオイ（要注意外来生物）』と『オオフサモ（特定外来生物）』、大分川及び支川尼ヶ瀬川で『オオフサモ（特定外来生物）』が確認され、地域住民の協力を得て除去作業を実施しており、今回で3例目となります。

これら外来種は、一般的に観賞用などの目的で持ち込まれ、それが捨てられるなどして野外に広がった可能性が指摘されています。

以上の事から、住民の皆様には外来生物の規制内容を十分に理解して頂き、不法な投棄を行わないようお願い致します。

※特定外来生物とは、外来生物法によって、輸入や飼養などが規制される生物

※要注意外来生物とは、外来生物法による規制とは別に、「生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に係わる個人や事業者等に対し、適切な取り扱いについて理解と協力をお願いするもの」としてリストを発表した「要注意外来生物」に該当する生物

【問い合わせ先】

国土交通省大分河川国道事務所 調査第一課長 三浦 097-546-1474  
大分市 河川課 土木建築部 河川課長 首藤 097-537-5632

【参考】

1. 外来種確認位置図・・・別添資料のとおり

2. 現在の対応状況

7月2日（金） 国土交通省にて大野川の除去作業完了

大分市にて大野川支川迫川の除去作業を実施中

3. その他

参考文献「河川における外来種対策の考え方とその事例」

発行：財団法人リバーフロント整備センター

○外来種確認位置図、参考文献、撤去作業の映像、画像については、国土交通省大分河川国道事務所で保有しておりますので、御入り用の方は、御連絡頂ければ、メール（映像以外）で送付致します。

⑬ オオフサモ、ミズヒマワリ、ナガエツルノゲイトウ、ホテイアオイ、アゾラ・クリスタータ：淀川河川事務所

1. 平成26年度淀川外来種対策実施概要

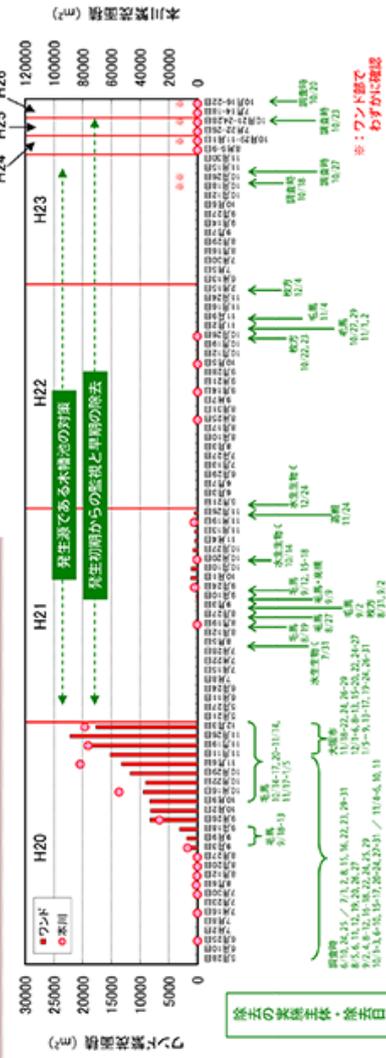
1.1 外来水草

(1) 実施概要

実施項目		平成26年度に実施した対策		結果概要
① 発生初期段階からの外来水草の生育・分布状況の監視・記録	■河川巡視による確認	河川巡視において、対策対象種の過剰繁殖があれば記録し、報告。	環境委員(河合委員)からの確認情報	・ 特に状況報告なし
	■その他 情報収集	H23年度のボタンウキクサ等の急激な減少状況を踏まえ、巡視等による監視、その他情報収集により、分布調査は効率化する。	木幡池の現地確認 ・ 村上委員現地確認：10/7 ・ 定見写真撮影：10/17	・ 9/7に赤川水管橋下流の低水源岸水路の最上流端において、河合委員よりボタンウキクサ数株の確認情報を入手した。 ⇒個体数が少なく、秋季の分布調査も近々予定していたことから、他地区の確認と合わせ、秋季調査時に除去を行うこととした。
② 繁殖状況を踏まえた対策の実施	■踏査による分布調査	踏査による分布調査は、浮遊性のボタンウキクサやホテイアオイの繁茂拡大前の夏季と多くの種の生育盛期である秋季の年2回に効率化する。	対象区間 淀川本川(淀川大堰～三川合流)、芥川(直轄区間) 実施時期 ① 夏季：7/14、16～18 ② 秋季：10/16～17、20～22	・ 以前の主要な発生源であった木幡池では、今年、ボタンウキクサの確認はなかった。 ・ 対策対象のうち、ボタンウキクサ、ミズヒマワリ、ナガエツルノゲイトウ、アゾラクリスタータ、オオフサモ、ホテイアオイの6種を確認。 ・ ボタンウキクサは、夏季は確認されなかったが、秋季は赤川水管橋下流の低水源岸水路で少量を確認(上記、河合委員の確認箇所を再確認)。 ・ ホテイアオイは少量であったため、分布調査時に可能な限り除去した。
	■現地踏査による結果を整理し、それを元に対策方針を設定の上、除去を実施する。	現地踏査による結果を整理し、それを元に対策方針を設定の上、除去を実施する。 ・ ボタンウキクサ、ホテイアオイは基本的に早期に除去を実施。 ・ アゾラクリスタータは水面を広く覆う状況の場合、早期に除去を実施。 ・ 再生力の強い種(ナガエツルノゲイトウ、ミズヒマワリ、オオフサモ)は、活性が低下する冬季に除去を実施。	実施状況 <夏季> ホテイアオイを分布調査時に除去	・ アゾラクリスタータは一部箇所(赤川・毛馬水路等)で比較的多まった群落のみみられたが、ワンド内への拡大はみられなかったため、秋季調査まで継続的に監視を行う方針とした。 (急激な分布の拡大がみられた場合、早期の除去を検討することとした)⇒実際には8月の台風による出水もあり、その後顕著な分布の拡大はみられなかった。 ・ ボタンウキクサ及びホテイアオイの一部は少量であったため、踏査による確認時に除去した。
			<秋季> ボタンウキクサ、ホテイアオイを調査時に除去	・ 淀川河川事務所枚方出張所、高柳出張所、毛馬出張所、高槻市、市民団体等による除去の実施
			<冬季> ナガエツルノゲイトウ、ミズヒマワリ、オオフサモを対象に除去	

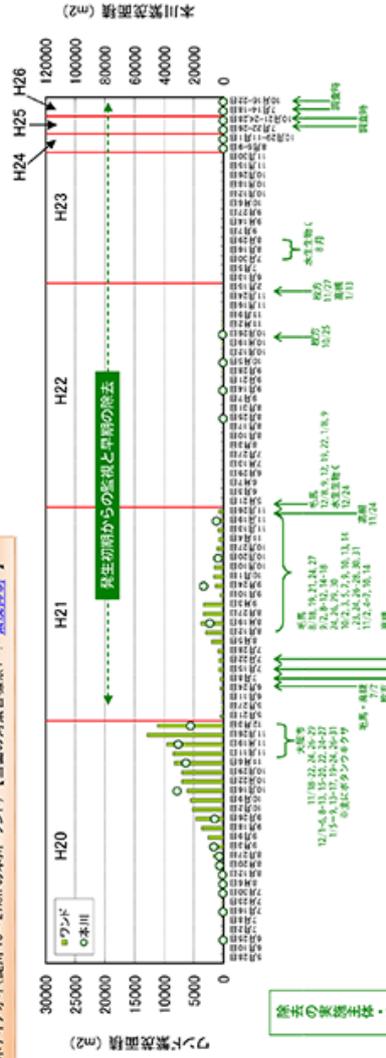
(2) 外来水草の生育・分布状況の推移 (淀川10~27kmの本川・ワンド及び芥川)

ポタンウキカサ (淀川10~27kmの本川・ワンド) 【当面の対策目標※1: 根絶】



H21以降の終生源(木瀬池)での対策、発生初期からの監視と早期の除去により、近年、大繁茂はみられない。

ホテイアオイ(淀川10~27kmの本川・ワンド) 【当面の対策目標※1: 基元根絶】



H21以降の発生初期からの監視と早期の除去により、近年、大繁茂はみられない。

- 平成26年度ポタンウキカサ確認状況
  - ・ 7月の夏季調査時は確認されなかった。
  - ・ 秋季に赤川本管橋下流の低水遊歩水路において、計40株程度を確認した(調査時に除去)。
  - ・ 以前、発生源であった木瀬池では、今年の確認はみられなかった。



<ポタンウキカサ生育状況>

■ ポタンウキカサ除去量

回収主体	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
乳馬出張所	886	673	-	-	-	-
高槻出張所	646	-	543	-	-	-
秋方出張所	38	-	-	-	-	-
分布調査時	-	-	-	0.8	-	(約40株)
大坂府立水生生物センター (約32株)	-	-	-	-	0.8	(約40株)
ポタンウキカサ 合計	1,570	1,216	0	0	0	(約40株)

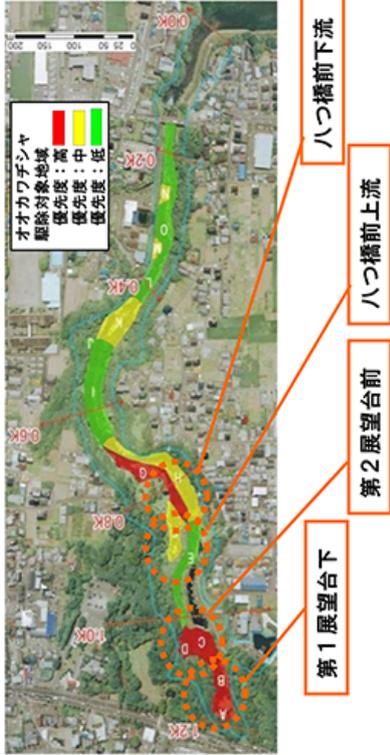
- 平成26年度ホテイアオイ確認状況
  - ・ 夏季は、経緯24号ワンド及び木川部(城北付近)で少数個体を確認した(何れも調査時に除去)。
  - ・ 秋季は、赤川4号ワンド、経緯ワンドで少数個体、城北41号~WL5水路でややまとまった個体を確認した(比較的量の多い城北41号~WL5水路を除いて調査時に除去)。

■ ホテイアオイ除去量

回収主体	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
毛馬出張所	94,301	-	-	-	-	-
高槻出張所	7,376	200	-	-	-	-
秋方出張所	116,932	3,539	-	-	-	-
分布調査時	-	-	-	-	-	(約30株)
大坂府立水生生物センター (約411株)	-	-	-	0.3	-	(約160株)
ホテイアオイ 合計	218,609	3,739	0	0	0	(約160株)

※1 当面の対策目標: 第28回淀川環境委員会 (H23.3.26) において示されたものに準拠,  
 ※2 図中の緑色の注記は除去の実施主体と除去日を示す。なお、「毛馬」「芥川」「高槻」は国土交通省の山田湖町、「水生生物C」は大坂府立水生生物センターを示す。

### ①オオカワヂシャの駆除

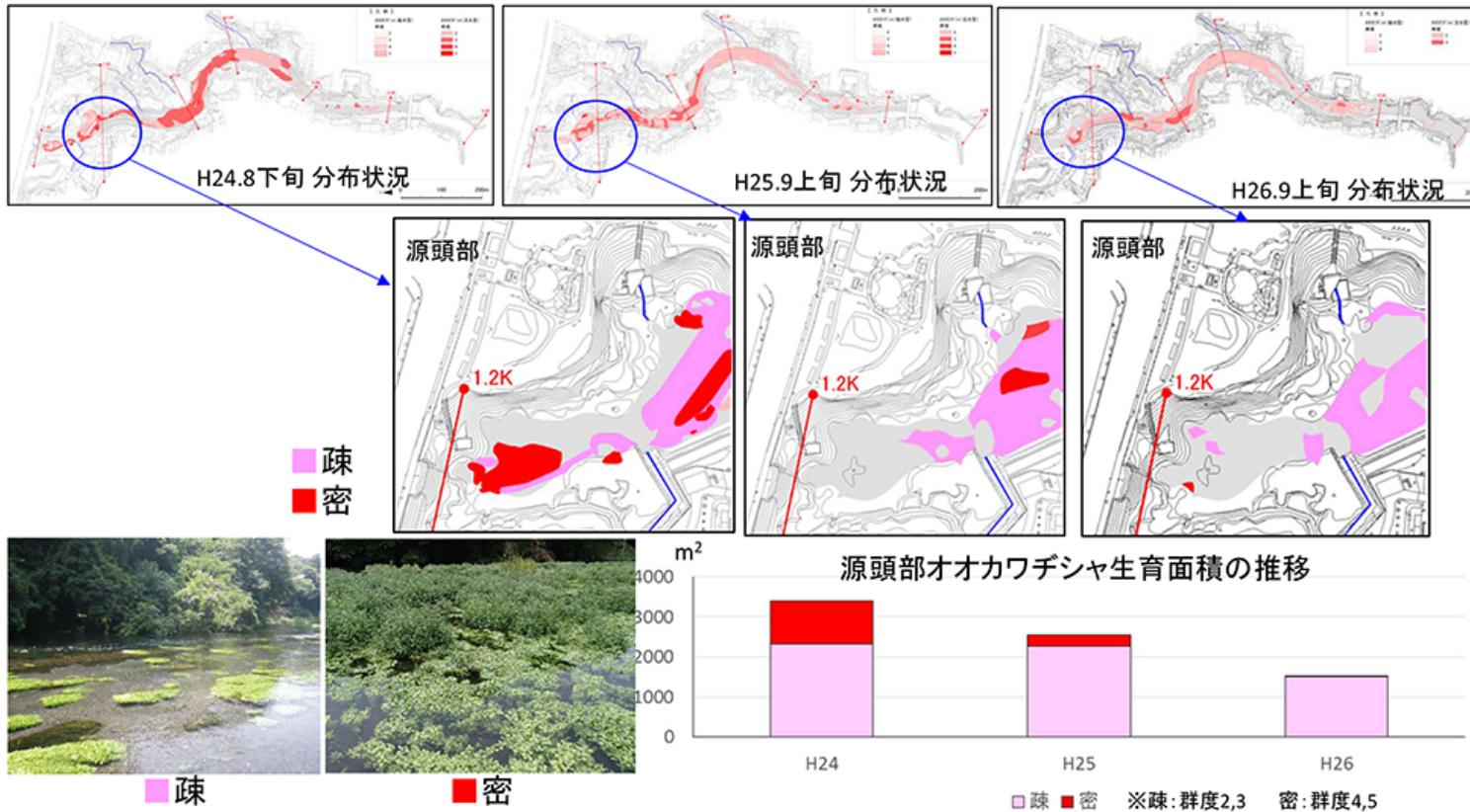


- ・26年度は、4～6月に月2回、7～12月は月1回、各関係主体と協働で駆除活動を実施
- ・26年度も、毎月30名以上の参加者を得た
- ・26年度も第1展望台下での駆除を優先的に実施した

		平成25年												平成26年											
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
月	日	30	27	25	22	27	31	28	19	23	21	22	5	26	10	24	14	28	26	23	27	26	22		
	人数	26	30	33	37	36	31	38	32	22	17	26	14	33	31	39	30	36	38	45	44	37	30		
場所																									
	第1展望台下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	第2展望台前			○	○			○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	八つ橋前上流				○			○	○									○					○		
	八つ橋前下流									○													○		

## ②現地調査・実験 B 詳細分布調査

平成26年9月初旬に詳細分布調査を実施した。  
目視にて、オオカワヂシャの分布範囲と群度を記録した。



オオカワヂシャは、平成25年度から源頭部を中心に1回/月の駆除活動を継続したことにより減少している。  
平成26年度からは、4～6月の成長期に2回/月の駆除活動を実施したこともあり、  
源頭部のオオカワヂシャの生育面積はさらに減少した。